

## 新たな地域づくり事業計画書

### 1. 計画策定にあたって(経緯)

平成23年度に創設した「元気な地域づくり特別事業交付金」は平成27年度末で終了する。

自治振興会では「元気な地域づくり特別事業交付金」を活用して創意工夫あふれたソフト事業が実施され、地域の活性化に向けた取組みが推進されたが、まだまだ地域課題を解決する組織づくり、地域を支える人材の育成や確保など様々な課題がある。

平成28年度から市民主導で持続可能な地域づくりを推進する事業、地域課題を解決する事業を進めるため計画策定委員会を立ち上げ、計画立案を行い事業を推進することになった。

### 2. 新たな地域づくり計画策定委員会メンバー

| 役 職 名           | 氏 名    | 備 考        |
|-----------------|--------|------------|
| 久下自治振興会会長       | 荒木 長司  |            |
| まちづくり部副部長(自治会長) | 清水 邦泰  |            |
| まちづくり部副部長(自治会長) | 岸本 充裕  |            |
| 自治会長            | 清水 正彦  |            |
| 自治会長            | 中村 雅俊  |            |
| 老人クラブ副会長        | 森田 豊一  |            |
| 老人クラブ副会長        | 大西 かほる |            |
| 教育人権部副部長        | 浅葉 法子  | 構成団体 おくどさん |
| 構成団体 いずみ会       | 國光 はるみ |            |
| 久下小PTA会長        | 杉浦 克典  |            |
| 久下小PTA副会長       | 田中 ゆかり |            |
| 健康体育部副部長        | 三原 鈴子  | 構成団体 体育振興会 |
| 環境福祉部副部長        | 中村 裕子  |            |
| ボランティア協会        | 清水 和子  |            |
| 広報部副部長          | 藤本 佳代子 |            |
| 教育人権部協力員        | 垣内 陽子  |            |
| 兵庫県職員(県民局)      | 山内 一郎  |            |
| 社会教育            | 宮崎 実康  |            |
| 社会教育            | 田中 貫道  |            |
| 元PTA会長          | 清水 徹   |            |
| 元PTA会長          | 大石 和之  |            |
| 構成団体 笛路村        | 竹岡 正行  | Iターン者      |
| 柏原高等学校          | 待場 啓太  | 学生         |
| 柏原高等学校          | 大西 貴也  | 学生         |
| 丹波市職員           | 藤本 公洋  | 支援者        |
| 丹波市職員           | 荻野 浩仁  | 支援者        |
| 久下自治振興会副会長      | 大西 誠   | 事務局        |
| 久下自治振興会副会長      | 竹内 安紀  | 事務局        |
| 久下自治振興会副会長      | 待場 定樹  | 事務局        |
| 活動推進員           | 久下 秀和  | 事務局        |

### 3. 三役会議

- ・ 久下自治振興会会長・副会長・活動推進員により会議進歩を図ることにする。

#### 4. 活動経過

##### 〈新たな地域づくり計画策定委員会〉

|              |                                                                                                               |
|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 平成27年10月1日   | 地域づくり計画案についての検討（三役会議）                                                                                         |
| 平成27年11月1日   | 計画策定委員会の組織づくり（三役会議）                                                                                           |
| 平成27年11月16日  | 計画策定委員会の組織づくり(名簿作成)（三役会議）                                                                                     |
| 平成27年11月17日～ | 計画策定委員委嘱の依頼                                                                                                   |
| 平成27年12月6日   | 第1回 計画策定委員会<br>グループ別「ワークショップ」                                                                                 |
| 平成27年12月13日  | 第2回 計画策定委員会<br>先進地視察 生田地域活性協議会                                                                                |
| 平成28年1月17日   | 第3回 計画策定委員会<br>小委員会(4グループ)にて意見交換会<br>①遊休地・休耕地・田畑を活用した作物・特産品づくり<br>②地域資源(地域の宝物)の活用<br>③交流とイベント<br>④子ども中心のまちづくり |
| 平成28年2月1日    | 今後の小委員会の進め方について協議（三役会議）                                                                                       |
| 平成28年2月7日    | 第4回 計画策定委員会<br>小委員会(4グループ)テーマ毎にて意見交換会                                                                         |
| 平成28年2月15日   | 今後の作業の進め方について検討(三役会議)                                                                                         |
| 平成28年3月5日    | 第5回 計画策定委員会<br>計画内容の検討(現状と課題・基本方針)<br>今後の事業計画について                                                             |
| 平成28年3月15日   | 計画策定委員会のまとめ(三役会議)                                                                                             |
| 平成28年3月17日   | 計画策定委員会の説明（久下自治振興会正副部長会）<br>平成28年度の事業内容の検討                                                                    |

#### 5. 現状と課題

地域課題については、計画策定委員会におけるワークショップ方式の実施計画案検討の中で具体的に示されました。かつ、「市民主導で持続可能な地域づくり」のための人的資源の発掘、人材育成の目線で策定委員会の選任が行われました。つまりは、いかに優れた久下地区の将来像を描いたり、基本計画や実施計画を策定しても、それを実施していく協働の分野が充実していかない限りは、計画のための計画に終わり、市民主導で持続可能な地域づくりにはつながっていかないと考えます。

自治会をはじめ久下自治振興会、各種団体役職の成り手が少ないということが、最大の地域課題ではないでしょうか。任期だけを果たせばよいという姿勢、また役員任せの住民意識など、「参画と協働」の自治基本条例が醸成されていない現状では、地域づくりは進んでいないのは自明のことです。

同和教育とは「義理と人情のわかる、おせっかいな子を育てていくこと」です。「しんどい思いをしている人を目の前にして放っておいていいのか」という同和教育のめざしてきたことは、

部落問題に端を発して、地域活動に、さらには地域による子育てに生かされ、「住んで良かった」「住みたい」と思っていただけの地域づくりが進んでいくのではないか。「自分さえよければよい」という利己的な生き方にはない「ぬくもり」が、豊かな田舎の暮らしではないでしょうか。自治振興会自体がその課題解決の方向性をもたないままの計画づくり、プランの羅列では意味のないことです。「活動に興味や関心をもってください、参画と協働してくれる人」「活動の核になってくれる人」づくりのための「仕組みや仕掛け」を今後も作り続けて行かなければなりません。

## 5. 久下地域の基本方針

緑豊かな自然環境を守り、安心安全な生活環境を維持し、心豊かな生活をするため「お互い様」の気持ちを大切に「全員参画型の思いやり社会」を目出します。

### 「みんなでつくる久下の里(高齢者・若者世代・女性の参画)」

#### 推進項目

- ・ 子供が元気に育つ地域づくり(地域の教育力)
- ・ 住みたいと思うまちづくり(久下の宝物)

## 6. まちづくり計画

久下地域の現状や課題を踏まえ、心豊かな生活と緑豊かな環境を守るため、また、将来の発展のために助け合う地域を目出して、まちづくりを進めて行きます。

また、ここにあげた計画は計画策定委員会での、意見・検討課題をあげていますが、久下地区の発展、更にこの事業の推進と併せて検討していきたいところです。

